

輸血用を含めた血液製剤全般のコスト構造について(論点整理)

1. アルブミン製剤の国内自給について(特に原料血漿価格)

(これまでの意見等)

- アルブミン製剤の国内自給が低い要因は価格が高いこと。
- 国際価格と比較することも考えるべきではないか。
- 国内自給が達成できる価格で原料血漿を提供するべきではないか。
- 各種検査の必要性については別途議論も必要ではないか。
- 定額制を検討してみてもどうか。

(論点整理)

【短期的視点】

- 原料血漿価格を政策的に引き下げることによりアルブミン製剤の価格を下げた場合に、アルブミン製剤の国内自給率が本当に向上するか。

【中長期的視点】

- 成分採血のコストをより効率的に実施することができないのか。

2. 新鮮凍結血漿の価格について

(これまでの意見等)

- 新鮮凍結血漿は、原料血漿とは異なり、規格等に基づいて製造する必要があり、製品としての流通経費、販売促進経費や遡及調査経費が必要となること等から、価格に違いがあることは理解ができる。
- しかしながら、新鮮凍結血漿の価格については、国内外での格差が大きすぎるのではないかと、新鮮凍結血漿と原料血漿の現状の価格格差が大きすぎるのではないかと。

(論点整理)

- 輸血用血液製剤の価格の配分は適正なのか。

3. 日本赤十字社の透明性について

(これまでの意見等)

- 日本赤十字社の血液事業の運営については、米国・英国の血液事業の運営状況と比較して、大きく無駄があるようには考えられないが、透明性が確保されていない。
- また、日本赤十字社の集約化等によって効率化されたことによってコスト削減された部分が、どのように還元されるのか(例えば価格に反映する等)が不透明である。
- 人件費が高いと思われ改善が必要ではないか。

(論点整理)

- 独占企業の製剤薬価について、市場価格が下がらず、結果として薬価が下がらないことについて、検討する場が必要ではないか。
- 日本赤十字社の血液事業について、日本赤十字社において、外部委員による審議会(重要事項について審議)を設置して議論しているが、更なる透明性が確保できないか。
- 日本赤十字社の血液事業の効率化等によって、コスト削減された部分を、国民に還元する仕組み(例えば価格に反映される仕組み)を作ることができないか。
- 中期的な数値目標をかかげ、コスト削減の取組を見せていくことが必要ではないか。